

各位

全3ページ
登録速報(2021-220)
2021年10月27日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2021年10月27日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号 第 22174 号

名称 クミアイワンリード箱粒剤08

2. 変更の内容

農薬登録申請書第6項「農薬の適用病害虫の範囲及び使用方法」を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用法「育苗箱の床土に均一に混和する。」および「育苗箱の上から均一に散布する。」に使用量「高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」のクロチアニジンを含む農薬の総使用回数「4回以内（移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内）」を「4回以内（移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内）」に変更する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第7項「農薬の使用上の注意事項」に(2)として以下を追加し、現行(2)以降を順次繰り下げ、別紙のとおりとする。

【追加事項】

- (2) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

別紙

【変更後】

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	加チアジンを 含む農薬の 総使用回数
<p><u>稲</u> (箱育苗)</p>	<p>イネミスゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマクモコバエ</p>	<p>育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g</p>	は種前	1回	<p><u>育苗箱の床土に 均一に混和する。</u></p>	<p><u>4回以内</u> (<u>移植時までの</u> <u>処理は1回以内、</u> <u>本田での散布、</u> <u>空中散布、</u> <u>無人航空機散布は</u> <u>合計3回以内</u>)</p>
		<p><u>高密度に</u> <u>は種する場合は</u> <u>1kg/10a</u> (<u>育苗箱</u> <u>(30×60×3cm、</u> <u>使用土壌約5L)</u> <u>1箱当り</u> <u>50～100g</u>)</p>				
		<p>育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g</p>	は種時覆土前～ 移植当日		<p><u>育苗箱の上から</u> <u>均一に散布する。</u></p>	
		<p><u>高密度に</u> <u>は種する場合は</u> <u>1kg/10a</u> (<u>育苗箱</u> <u>(30×60×3cm、</u> <u>使用土壌約5L)</u> <u>1箱当り</u> <u>50～100g</u>)</p>				

【変更後】

7. 農薬の使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (2) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上